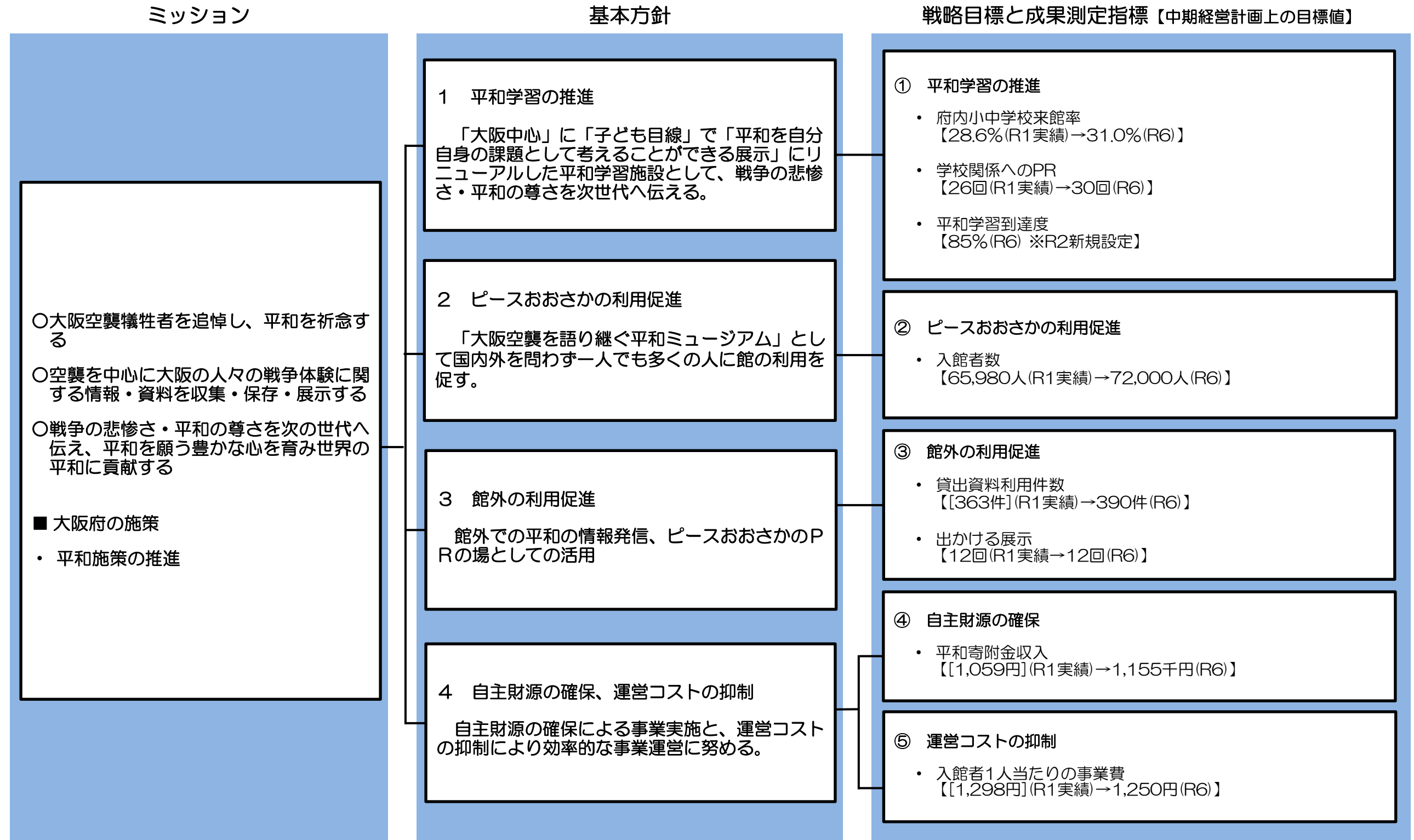


法人名	公益財団法人大阪国際平和センター
作成（所管課）	府民文化部人権局人権企画課

○ 経営目標設定の考え方



○ 令和元年度の経営目標達成状況及び令和2年度目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)											
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウエイト (R2)	中期経営計画 (R2～R6)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
						実績[見込]			R2目標	最終年度 目標	
① 平和学習の推進	府内小中学校来館率 (ピースおおさかに来館した府内公立小中学校数/府内全公立小中学校数)	☆	%	-	(29.9)	- (28.6)	↓7.1	20	29.6	31.0	平和学習施設としての役割を果たすという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、令和2年5月21日まで閉館していた状況や今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。
	学校関係へのPR	☆	回	-	(24)	- (26)	↓21	10	27	30	上記目標を達成するために効果的であるという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、上記記載の影響等を考慮して設定。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)										具体的活動事項	
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○当法人は、①大阪空襲犠牲者を追悼し、平和を祈念する ②空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報・資料の収集、保存、展示する ③戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝え、平和を願う豊かな心を育み、世界の平和に貢献することを目的とし、平成27年4月に「大阪中心」に「子ども目線」で「平和を自分自身の課題として考えることができる展示」にリニューアルし、主に平和学習施設として運営している。</p> <p>○先の大戦を自らの体験として語れる人は少なくなる一方、平和学習施設として平和の尊さを次世代へ伝えるべく、府内小中学校へ働きかけ、1校でも多くピースおおさかを利用してもらうことを最重点目標とするものである。</p>										
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○当財団の運営費のほとんどは府市の補助金に依拠しているが、平成20年の財政再建プログラム案において「府派遣職員は必要最小限」とされ、それ以降の補助金の減額も相まって、組織体制、事業展開とも極めて厳しい状況にあり、限られた人員・資源を生かした効果的な運営が求められている。</p> <p>○府内の公立小中学校については、エリアごとによってピースおおさかへの来館率にばらつきがあり、来館率の低いエリアへの効果的な働きかけが必要である。</p> <p>○カリキュラムや業務の増加により、教員の平和学習の機会が減少しており、教員に向けた積極的なPRが必要である。</p>										
活動方針	<p>新型コロナウイルス感染症の影響に留意しつつ、学校等への働きかけを積極的に行い、府民等への平和学習機会の充実を図る。</p> <p>※新型コロナウイルスの影響 当館は新型コロナウイルスの影響により閉館していたが、新型コロナウイルス感染防止対策を適切に講じた上で令和2年5月22日から開館している。開館後の目標設定にあたっては、中期経営計画で設定した目標数値を基礎に、①小中学校の校外学習の実施予定状況、②外国人観光客の動向、③ソーシャルディスタンスの確保など入館者受入れ体制の整備の程度などを総合的に考慮する必要があるが、現時点においては不確定な要素が多いため、一定の推計に基づいて設定している。今後明らかになる状況の変化に応じて、目標設定数値を適切に修正する必要がある。</p>										
											<ul style="list-style-type: none"> ・市町村教育委員会や校長会等におけるPRの実施 ・貸出資料や語り部の派遣等の平和学習の利用促進 ・講堂や会議室の利用の促進、教員等による平和や人権研修の誘致 ・見学ワークシート、平和紙芝居、教員のための平和学習講座、戦跡ウォーク、定時映画上映など、教員の平和学習のサポートに取り組む ・学校教員向けのアンケートによる効果的な平和学習のニーズの把握

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウェイト (R1)	H30実績	R1目標	R2目標	ウェイト (R2)	中期経営計画 (R2~R6)		R2目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定 の場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						実績〔見込〕			R2目標	最終年度 目標		
① 平和学習の推進	平和学習到達度 「ピースおおさかが平和学習の場として役立ったか」という問いに対し、「役立った」/全回答(「役立った」「役立ったがもう少し工夫・改善があればなお良い」「あまり役立たなかった」「役立たなかった」)	☆	%	—	—	—	85	10	85	85	平和学習施設としての役割を果たすという考え方で設定した中期経営計画の目標値とする。	・教員向けアンケートによる効果的な平和学習のニーズの把握
② 効果的な情報発信	入館者総合満足度 「とてもよかった」+「よかった」/全回答(「とてもよかった」+「よかった」+「よくなかった」+「とてもよくなかった」) ※無回答・不明除く		%	15	94	90 95	—	—	—	—	—	—
② ピースおおさかの利用促進	入館者数		人	20	69,539	78,000 × 65,980	↓ 23,200	15	71,200	72,000	少子化等を踏まえ設定した中期経営計画の目標値を基礎に、令和2年5月21日までの閉館状況や今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。	・企画事業の充実 ・日本平和博物館会議やユニセフ・ユネスコ等外部団体との連携 ・会議室活用の誘致 ・外国人観光客に向けた情報発信等
	市町村教育委員会・校長会等・企業へのPR		回	10	32	33 33	—	—	—	—	—	—
③ 館外の利用促進	貸出資料利用人数		人	15	145,392	142,000 × 110,812	—	—	—	—	—	—
	貸出資料利用件数	☆	件	—	(378)	— (363)	↓ 187	10	378	390	館外の利用促進を図るという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、令和2年5月21日までの閉館状況や今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。	・来館が困難な学校に向けたPRの実施 ・貸出資料を増やして対応
	出かける展示		回	15	12	12 12	↓ 7	10	12	12	館外の利用促進を図るという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、令和2年5月21日までの閉館状況や今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。	・展示先の確保 ・展示内容の充実

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

④ 自主財源の確保	平和寄附金収入		千円	15	1,302	1,155 × 1,059	↓ 655	15	1,155	1,155	貴重な自主財源としての寄附金について、広く募集を呼びかけるという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、令和2年5月21日までの閉館状況や今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。	・企画事業等での広い寄附の呼びかけ ・税の優遇措置のPRの継続
⑤ 運営コストの抑制	入館者1人当たりの事業費 (「一般会計」支出合計(事業活動支出額)/入館者数)		円	10	1,213	1,100 × 1,296	↓ 3,889	10	1,270	1,250	効率的な運営を図るという考え方で設定した中期経営計画の目標値を基礎に、令和2年5月21日までの閉館状況や今後の新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して設定。	・目標入館者数の達成 ・運営コスト抑制の取組みの継続

【凡例】

- ・☆はR2年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人大阪国際平和センター

CS調査の実施概要

○令和元年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度	アンケート（書面・本人記入）	施設入館者	3,632人	通年

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	R2年度にめざす状態
<p>アンケートに記載の主な意見</p> <p>①見学順路（2階→1階→3階など）が分かりにくい。</p> <p>②文字が小さく、見にくいところがある。</p> <p>③照明の暗いところがあり、写真説明などが読みにくい。</p> <p>④（外国人入館者から）もっと英語表記がほしい。</p> <p>⑤展示内容について、もっと被害と加害の両面から伝えるべきである。</p> <p>など</p>	<p>①小中学生の引率教員の事前申込(下見)時に見学順路の説明に加え、音声ガイドの墨字版(順路の番号表示あり)を引き続き配付している。また、適宜必要な館内の案内表示を設置している。</p> <p>②見学頻度の高い1階の展示物である「大阪空襲一覧」「全国空襲状況」は拡大して、3階のワークショップスペースに掲出している。</p> <p>③令和元年度に常設展示の暗い箇所5か所に新たに照明器具を設置した。</p> <p>④可能な限り常設展示や特別展示において英語表記を設けている。</p>	<p>物理的(デザイン、空間など)・財政的な制約がある中、展示ストーリーや展示のねらいとの整合を図りつつ、見やすく分かりやすい展示となるよう努めていく。</p>

○令和2年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
入館者総合満足度	アンケート（書面・本人記入）	施設入館者	3,000人	通年

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の 目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
入館者数	人	78,000	65,980

未達成の要因と分析	<p>【要因】①学校関係 ②学校以外 ③その他（外的要因）</p> <p>【分析】</p> <p>①学校関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の平和研修の機会の減少によるピースおおさかの知名度の低下。 ・教育関係権限を移譲された中核市は、教員研修等を市内で実施する傾向がある。 ・カリキュラムの増加により、校外学習の時間が奪われている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、2月及び3月に予約されていた23校（3477人）がキャンセルとなった。 <p>②学校以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入館者数については企画事業等の効果もあり、1月末時点(※)の段階では前年度より2,325人増（+3.9%）となったが、即効性のある事業展開が十分でなかった。 ・訪日韓国人観光客の減少により、韓国人の来館者数が前年度より681名減（-68.9%）となった。 <p>※2・3月は新型コロナウイルスの影響のため、1月末時点とする。</p> <p>③その他（外的要因）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台風による8月15日の終戦の日平和祈念事業の中止。 ・新型コロナウイルス感染症による2月29日からの臨時休館。
-----------	--

今後の改善方策	<p>①学校関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村教育委員会や校長会等へのPRの継続 ・ピースおおさかの講堂・会議室等の利用促進 ・教員向けアンケートによる改善点の見直し ・府外の来館してくれた学校関係へのPR ・旅行会社との連携 ・夏休みなど校外学習の無い期間における小中学生の催しの充実 <p>②学校以外</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展・平和祈念事業等の企画事業の充実 ・日本平和博物館会議やユニセフ・ユネスコ等の連携強化 ・特に外国人観光客向けとして、無料wi-fiの稼働 ・旅行会社や大阪観光ボランティア協会との連携により、大阪城公園を訪れる訪日外国人の誘客に努める。
---------	---

法人名

公益財団法人大阪国際平和センター

■ 目標値未達成の要因について

〔2〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の 目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
貸出資料利用人数	人	142,000	110,812

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・大口の利用人数の自治体・学校などの利用が減少 ・貸出先利用件数の減少（H30：378件 → R1：363件）
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・来館が困難な学校に向けた貸出資料のPR ・貸出利用が夏に集中することもあり、貸出資料を増やして対応 ・貸出先により人数が左右される側面もあることから、件数を目標として増加に取り組む。

〔3〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の 目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
平和寄附金収入	千円	1,155	1,059

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none"> ・台風による8月15日の終戦記念日の平和祈念事業の中止 ・新型コロナウイルスによる臨時閉館（2月29日～）による影響 ・個人の篤志家からの大口寄附が減少
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・企画事業において広く寄附を呼びかける。 ・税の優遇措置のPR（継続）

法人名

公益財団法人大阪国際平和センター

■ 目標値未達成の要因について

〔4〕

R元年度の 成果測定指標	単位	R元年度の 目標値	R元年度の 実績値〔見込値〕
入館者1人当たりの事業費	千円	1.1	1.3

未達成の要因と分析	<ul style="list-style-type: none">・入館者数が目標に未達成となった。・職務用のパソコン等の更新や図書整理にかかる費用が増加。
今後の改善方策	<ul style="list-style-type: none">・入館者数の増・光熱水費や消耗品等のコスト抑制に努める。

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

（※大阪府から成果測定指標の変更を提示した場合は除く）

〔1〕

●変更前

R元年度の成果測定指標	単位	R元年度の目標値
市町村教育委員会・校長会等・企業へのPR	回	33

●変更後

R 2 年度の成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値
学校関係へのPR	回	21

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	従来は最重点目標を「入館者数」とし、入館者数を増やすためのプロセス指標として「市町村教育委員会・校長会・企業等へのPR」を設定していた。令和2年度からは平和学習施設としての最重点目標として「府内小中学校来館率」を新規に設定し、1校でも多くの学校に来館を促すこととし、そのプロセス指標として「学校関係へのPR」に変更する。
-----------------------------	--

〔2〕

●変更前

R元年度の成果測定指標	単位	R元年度の目標値
入館者総合満足度	%	90

●変更後

R 2 年度の成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値
—	—	—

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	総合満足度については、平成28年度から90%を超えた高い目標を達成していること、また、審議会においても委員から廃止するよう意見もあったため。
-----------------------------	--

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

（※大阪府から成果測定指標の変更を提示した場合は除く）

〔3〕

●変更前

R元年度の成果測定指標	単位	R元年度の目標値
貸出資料利用人数	人	142,000

●変更後

R 2 年度の成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値
貸出資料利用件数	件	187

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	従来は貸出先の申告である人数を単位としてきたが、貸出先の学校や自治体の規模により結果が左右されるため、今後は資料を利用した貸出先の件数に単位を変更する。
----------------------	--

〔4〕

●変更前

R元年度の成果測定指標	単位	R元年度の目標値
入館者1人当たりの事業費	千円	1.1

●変更後

R 2 年度の成果測定指標	単位	R 2 年度の目標値
入館者1人当たりの事業費	円	3,889

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	従来は千円の単位としていたが、より正確性を高めるため、単位を円に変更する。
----------------------	---------------------------------------

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
府内小中学校来校率	%	28.6	7.1

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>中期経営計画で設定した目標数値を基礎に新型コロナウイルス感染症の影響を下記のとおり見込んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当面の間校外学習等の実施は困難であると想定されることから4月～8月までの来校数は0とする。 ・9月以降の校外学習等の動向についても不透明であることから、現時点では来校数を目標値の50%減少と見込む。ただし、毎年来校が集中する10月～12月は、木曜日、金曜日に来校が集中するため、来館制限（午前、午後各250名（3校）程度に制限）を行う必要があることから、さらに20%減少を見込み目標の70%の減少を見込む。
------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
学校へのPR	回	26	21

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>5月までに予定されていた校長会等でのPRは、集会自粛の影響により実施できなかったが、6月以降、集会、人の往来制限が緩和されていく状況に応じて教育委員会等へ積極的にPR活動を行っていく。</p>
------------------	---

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
入館者数	人	65,980	23,200

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>中期経営計画で設定した目標数値を基礎に、来館者の属性（①小中学生、②小中学生以外、③外国人）に応じて新型コロナウイルス感染症の影響を下記のとおり見込んだ。</p> <p>①小中学生については、来館校率と同様の傾向。</p> <p>②小中学生以外については、開館以降80%減少から30%減少まで回復。 （開館～6月：80%減少、7月～9月：50%減少、10月～3月：30%減少）</p> <p>③外国人については、年度末まで90%減少。</p>
------------------	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
貸出資料利用件数	件	363	187

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により平和学習授業の中止等が予想されるため、年間を通じて大幅な減少が見込まれるが、8月の平和啓発時期以降徐々に貸出需要が回復すると想定し、開館～6月：90%減、7月～9月：50%減、10月以降：20%減と見込んだ。</p>
------------------	---

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔5〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
出かける展示	回	12	7

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>下半期は中期経営計画で設定した目標数値と同程度の実施を見込むが、上半期は新型コロナウイルスの影響を受け実施できないことから、年間トータルで見ると減少すると見込んだ。</p>
------------------	---

〔6〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
平和寄附金収入	千円	1,059	655

マイナス（現状維持）目標の考え方	<p>新型コロナウイルスの影響による閉館やイベント時の人数制限により、相当程度の減少を見込んだ。</p>
------------------	--

■ 令和元年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔7〕

成果測定指標	単位	R元年度の実績値(見込値)	R2年度の目標値
入館者1人当たり事業費	円	1,296	3,889

マイナス（現状維持）目標の考え方	新型コロナウイルスの影響により前述のように来館者数の大幅な減少が見込まれることから、1人当たり事業費が増加すると見込んだ。
------------------	---